

令和6年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立泰明小学校

学校の教育目標

○よく考える子ども ○思いやりのある子ども ○たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

児童が、「何のために学ぶのか」を認識し、「何を学ぶのか」が明確に理解でき、「どのように学ぶのか」を考えることができる授業の具現化に努める。そのために、『主体的、創造的な深い学びの実現を図るために、経常的な教材研究、教材開発の推進』をキーワードとし創造性に富んだ授業づくりに励むことを、泰明小学校としての教育実践目標とする。

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年とも6領域で目標値を上回っていた。また、全国や区の平均正答率を5ポイント以上上回っている項目も多い。5年生では、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、6年生では「我が国の言語文化に関する事項」において区の平均正答率をわずかに下回っていた。叙述の深い読み取りや記述などの表現力については個人差があり、特に自分の考えを表現することに苦手意識をもつ児童が一定数見られる。国語の記述の平均正答率は、4年生で77.5%、6年生が71.9%で目標、全国、区の平均正答率を5ポイント以上上回っているが、5年生では66.3%と区平均を5ポイント以上下回っている。	作者や筆者の意図に応じて話の内容を捉える力が不十分である。また、問題文で何を問われているのかを正確に理解しないまま解答する実態も見られる。文章を書く力においては、個人差が非常に大きい。論理的な書き方や構成の仕方を学ぶ活動が不足しており、書くことに苦手意識をもっている。日常で文の組み立てを考えながら書く経験が不足していることも要因であると考えられる。
算数・数学	令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年とも4領域で目標値を上回っていた。また、4領域の平均正答率でも4年生と6年生は、区・全国ともに上回っていたが、5年生は、「数と計算」領域で区の平均をわずかながら下回った。標準スコアによるカテゴリー間の比較をレーダーチャートで見ると、3学年ともすべてのカテゴリーで目標に到達しているが、4年生は「図形」「測定」「主体的に学習に取り組む態度」に、やや課題が見られる。5年生6年生では「データ活用」の領域の記述問題に課題がみられた。	4年生の「図形」「主体的に学習に取り組む態度」では、二等辺三角形など図形の作図が正しくできないことが要因であると考えられる。また、「測定」では時間や長さの単位を換算する感覚が不十分であることが要因であると考えられる。 5年生6年生ともにデータを読み取ることはできるが、与えられた情報から根拠を見つけて、正しいと判断した答えの理由を説明することができていないことが要因と考えられる。
社会	令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、5年生は3領域で、4・6年生は全ての領域で目標値を上回った。しかし、4年生の「生産や販売」「市の様子の移り変わり」や5年生領域の「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」では区の平均正答率を、5年生の「自然災害からくらしを守る活動」「伝統や文化、先人の働き」では、目標値、区の平均正答率ともに下回る結果となった。社会的事象について、複数の資料を基に判断したり変化を読み取ったりすることに課題が見られた。	複数の資料から読み取ったことをまとめ、判断したり表現したりするなどの活用力が不十分であることが考えられる。社会的な事象への興味・関心が低いと、活躍した人々の姿を知ることや、働く人々の努力や苦勞を想像する機会や経験の少なさが要因として考えられる。

理科	<p>令和6年度「学習力サポートテスト」の結果は、4～6年生とも目標値を上回っている。「物質・エネルギー」の領域では、7～9ポイントほど上回っているが、「生命・地球」では、4・5年において微増としている。</p> <p>特筆すべきは、5年において区の平均値と比較すると2%ほど下回っており、「活用」問題で正答率が特に低い。</p>	<p>要因として、観察や実験を通して、実際に見たり触ったり、操作したりしたことに関する知識や技能の定着が不十分であるという点があげられる。昆虫の足の本数、鉄の磁化、季節ごとの動植物の変化、水のしみ込み方と土の粒の大きさの関係、電流回路における電池のつなぎ方など、どれも体験的に学んだとされる単元において、正答を選択または記述によって説明できるようにすることが必要である。</p>
英語	<p>令和6年度「学習力サポートテスト」の結果では、全ての領域で目標値を上回っていた。また、全国の平均正答率と比べても全ての項目で上回っている。しかし、区の平均正答率と比較すると、「聞くこと」「読むこと」は下回っており、特に「読むこと」に関しては約4ポイント区の平均正答率を下回る結果となっている。「主体的に取り組む態度」が全国・区の平均を上回る一方で、「知識・技能」「読むこと」が区の平均を下回る結果になっていることが課題である。</p>	<p>知識・技能の定着に大きな個人差がある。また、アルファベットの読みや書きで全国を下回る点がある。正しく書けていても、4線上の書く位置を間違えて誤答になっているケースもある。</p>
体育・保健体育	<p>体力テストの結果は、6年男子と4年女子を除く学年が特定の種目で全国平均を下回っていた。種目別で大きく下回っているものは、1年生の「長座体前屈」、全体的に「上体起こし」「ソフトボール投げ」「50m走」も低い傾向が見られた。</p>	<p>体力テストは種目によって概ね好成績のものもあるが、特定の種目に全国平均よりも低い傾向があることから、遊びの中で経験のできない動きによる運動経験の不足が考えられる。</p>
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。 「書くこと」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を5ポイント以上上回るようにする。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。 「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を3ポイント以上上回るようにする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。 「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を5ポイント以上上回るようにする。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を2ポイント以上上回るようにする。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 「令和6年度学習力サポートテスト」において、中央区参加校平均を上回るようにする。

	<p>体育・保健体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの「50m走」において、男子女子共に全国の平均を上回るようにする。 ・体力テストの「上体起こし」において、男子女子共に全国の平均を上回るようにする。 ・体力テストの「ソフトボール投げ」において、男子女子共に全校の平均を上回るようにする。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、全ての教員がAB評価を付けられるようにする。
③ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて地域と連携した活動について協力・参画を促す。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図ることを目的として、タブレットを活用した家庭学習を取り入れる。提出率は全児童95%を目指す。
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果より課題の見た「ソフトボール投げ」「50m走」「上体起こし」について、全国の平均以上を目指す。 ・マイスクールスポーツの取り組みや「泰明タイム」を充実させ、それが日常の運動や遊びに結びついていくようにする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科のワークシートや振り返りで、書く場面を設定し、様々な文章を書く機会を増やす。また、書く時間を十分に確保するようにする。 ・スピーチ活動の機会を増やす。また、話すことや聞くことについては掲示物などを活用しながら児童が意識できる環境を整える。 ・日本の言語文化に触れる機会を増やす。また、読書活動や辞書で語句を調べる活動を取り入れることで、言語の理解を広げ、深められるようにする。 ・文章を書くときには、「はじめ」「中」「終わり」の構成をはっきりさせたり、活動の前に作文用紙の使い方や文章構成など既習事項を振り返ったりする時間を確保する。また、段落ごとに短冊に分けて少しずつ書くことや、タブレットやワードマップなどの思考ツールを活用することで書くことへの抵抗感を減らせるようにしていく。 ・思考ツールを活用し、考えを整理したり、広げたりする機会をもつようにしている。児童が活動に合った思考ツールを自由に選べるように、様々な種類の思考ツールの使い方を習得させていく。 ・低学年では、体験を通して学習が身に付いていくことを考え、音読発表会や生活科との合科的活動などを行いながら、読みを深めるようにする。 ・学校図書館や地域の図書館の団体貸し出しを利用し、平行読書や調べ学習が充実できるようにする。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に問題に取り組むことや、立式の成立理由などについて数直線等を使って考えるようにして、根本から理解させていく。 ・定規や分度器、コンパスなどを使う理由や特性等を丁寧に指導し、タブレットを使い、手で動画を何度も見るようにしながら作図などの問題に取り組ませていく。 ・知識・技能における指導では、具体物や半具体物を使い、児童が「単位」など抽象的な概念を実感的に理解できるよう教材の工夫をする。 ・自力解決の時間を十分に確保する。答えを書くだけでなく、その答えを導き出す過

	<p>程を大事にする。式だけでなく、文章や図などを取り入れて説明できるように指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで友達と考えを共有し、根拠をもって自分の考えを書いたり伝えたり考えを再構築したりする学習活動を多く取り入れていく。 ・公式の成立理由について、考える時間を十分とり理解させる。 ・タブレットの教材を使って立体を回転させたりすることで、具体物がなくても立体を展開したり組み立てたりする力を養い、空間認知能力を育成する。 ・既習の計算や文章問題を確実に理解させる。 ・タブレットの問題を活用し、習熟度別学習を充実させ、個にあった学習を進める。また、年4回のオータムスクールでの学びを普通の学習に生かしていけるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学年において、グラフや表、写真や地図などから読み取る活動を取り入れる。 ・低学年の生活科で銀座の街の商店や公共施設の体験を通して、そこから考えたことや分かることなどをまとめる学習を行う。 ・中学年社会科では、七輪体験や洗濯板体験など、先人の活躍、働く人々の努力や苦労を実感できる学習を取り入れる。また、考えたことや思ったことなどをまとめること。 ・高学年は、用語の暗記になりがちなので、資料から自分なりの考えを導いたり、資料を読み取る視点を考えたりすることを学習活動に取り入れる。また、ワークシートやノートなどに書くことで、さらに考察を深められるようにする。 ・社会科見学を活用し、実際に見たり実物に触れたりする機会を設定する。 ・考えたことを交流する活動を多く設定し、思考を深められるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知り得た実験結果から何が分かったのか、掘り下げる学習を展開し、論理的かつ科学的に考察を児童一人一人がまとめていけるようにする。 ・児童に実験方法を考えさせたり、試行錯誤させたりして、科学的な視点をもたせる。 ・事象との出会いや課題設定の場面では、具体物を用いたり、写真や動画を活用したりして、興味・関心をもって取り組めるように学習教材を工夫する。 ・理科支援員との連携を確実にする。観察材料を選別したり、予備実験を行ったりして、児童が分かりやすい、取り組みやすい授業を計画する。全ての児童が実感を伴って、学習内容を理解できるようにする。 ・センター教室でのプラネタリウムの学習や発展的な実験を通して、科学的な興味・関心を高められるようにする。 ・1～2年生の生活科では、植物・動物、昆虫などを探し観察する自然体験学習の充実を図る。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を使った音声やチャッツなどの反復練習を徹底させる。また、それを生かしてゲームやコミュニケーションをすることで着実に英語表現を身に付けさせたい。 ・ALTからのリスニングテストを実施したりALTとのコミュニケーションの機会を活かしたりして、会話体験を充実させる。 ・学習の振り返りを行い、成長や課題に気付くことができるようにしていく。 ・正しく書く力を身に付けられるように、単語や文章などをワークシートに書く際に4線に気を付けて書くようにする。 ・日常生活から英語を意識的に取り入れたり、他教科とも結びつけたりすることで、日常的に英語に慣れ親しむことができるようにする。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の単元計画を見直し、系統立てた学習を6年間で行っていくことで、体力向上を目指していく。 ・低学年「体づくり運動の運動遊び」の内容、(イ)体を移動する運動遊びや(エ)力

	<p>試しの運動遊びの活動で、多様な動きを経験させる機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育的活動である「泰明タイム」を充実させ、「なげくるん」や「ターゲットスナイパー」で投力の向上を図り、「鬼遊び」で走力を高めるための運動に、年間を通して取り組めるようにする。 ・「マイスクールスポーツ」である「体育朝会」の持久走に取り組ませる。また体育朝会では、短縄跳びや5分間走にも取り組み、年間を通して運動の機会を設け体力向上を目指す。
②授業改善	
取組Ⅰ	<p>管理職や教員同士による授業観察を行い、指導助言や資料提供等を行い、より児童が意欲的に学習に取り組めるよりよい授業を目指す。</p> <p>また、OJT研修の一つとして授業参観期間を年2回以上は設定し、互いの授業を見合うことでそれぞれの授業改善につながるようにしていく。</p>
取組Ⅱ	<p>学校評価の、児童・保護者による教師の授業における「理解」、「分かりやすさ」に関して、80%を上回るようにする。</p>

③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・銀座を中心にした地域と連携した活動について、保護者の協力を仰ぎ、数多く参加してもらうことを通して学校の経営方針や教育活動の理解を図る。より充実した活動の実現を目指す。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価等を通して、本校の教育活動への意見を吸い上げるとともに、その結果と対策をホームページや保護者会で公表する。家庭学習の徹底（90%以上）、挨拶や身だしなみなどの基本的な生活習慣（90%以上）の到達を目指す。

④体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を基に、体育科の授業改善を図るための取組として、効果的な指導方法や技術の習得の仕方を学ぶ体育実技研修を適宜設ける。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある教育活動の「泰明マラソン」を実施するとともに、運動することに興味・関心をもたせる工夫として、「マラソンカード」を活用する。取り組み方を工夫し、楽しみながら体力を向上させるようにする。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<p>「令和6年度学習力サポートテスト」において、5年生の思考・判断・表現の観点を除き、区平均を上回った。</p> <p>「書くこと」の学習では、「はじめ」「中」「終わり」の三つの文章構成を組み立てるワークシートを活用することで書く力を伸ばすことができた。</p> <p>卒業文集などの文章を書くときに題材決めから思考ツールを使うことにより、児童が書きたいと思える題材を設定できた。</p> <p>「話すこと・聞くこと」では、掲示物を活用して、継続して指導でき、明瞭に話すことや正しく聞くことができる児童が増えた。また、発表した後に聞いている人の反応を確かめるように指導し、自分が発表者になった時、相手に伝わるように話すことを意識する児童が多くなった。</p> <p>「読むこと」については、図書時間を固定時間割に入れたり、教室内に関連図書をおいたりすることで意欲的に読書し、学習を深めることができた。</p>	<p>特に5年生の書く力には個人差が見られる。低学年からの指導で、文章を書くときの決まりを習熟させたい。その都度、全体指導や個別指導を行っていく。高学年では、文章構成は理解しているが、誤字脱字や作文用紙の使い方を間違っている児童がいるため、推敲する力、粘り強く学習する力を身に付けさせていく。また、一文を長く書いてしまう児童が多く、接続語を活用するよう指導していく。</p> <p>文章を書くことが苦手な児童には、タブレットを活用することで負担を減らしたり訂正しやすくしたりすることが有効であり、タブレットの活用を適宜取り入れていく。</p> <p>話すこと・聞くことの活動で、自分の考えを相手に伝える場面において、自分本位の話し方、伝え方が見られる。今後は自分の考えを整理して筋道立てた話し方ができるよう思考ツールやタブレットを活用していく。</p>
	算数・数学	<p>「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で区平均を上回った。授業や家庭学習でミラシードのドリルパークの使用を継続的に行うことにより、既習事項の学び直しを図ることができた。</p> <p>授業は3年生以上は、習熟度別学習を展開し、個に応じた学習を進めた。</p> <p>自力解決の時間を毎時間の授業で設定した。既習事項を基に説明できるよさも理解した。自分なりの考えをもち学習に参加できたことはよい。</p> <p>デジタル教材を用いて立体を展開させたり、展開図を操作させたりして、実感をもちながら学習を深めることができた。</p>	<p>自力解決の時間は設けているものの比較検討の時間を設定できないこともあった。今後は比較検討の場面で、タブレットを効果的に活用していきたい。そのために、タブレット活用のミニ研修会を継続していく。</p> <p>個に応じた学習の充実を図るために、学年内での4クラス展開、1クラス内の人数等を、児童の実態並びに単元の学習内容に合わせて調整していく必要がある。</p>

	<p>社会</p>	<p>「令和6年度学習力サポートテスト」において、5年生の知識・技能以外では区平均を上回った。毎時間の学習単元を構造的に捉えやすくしたワークシートを用いて授業を行い、自分の考えを書いたり、資料を読み取る視点を見つけたりできる児童が増えた。授業では、写真やグラフなどの資料を意図的に提示し、事象が起こった要因を児童に考えさせ、学習内容の理解を深めることができた。また、思考ツールを活用したり、学習内容をまとめたりすることができた。</p> <p>3年生の学習では、昔の道具体験を行い、高学年の学習では、資料集や映像教材、さらに博物館見学が思考力の向上に非常に有効であった。当時の様子を現在と比べながら様々な観点で学び、体験学習を自己の学びにつなげることができた。</p>	<p>体験的な学習を通して身の周りのことから社会科の学習へとつながれる。資料の読み取りができるようになったものの、比較することについてはまだ不十分である。資料を見る視点の提示するなど、継続して支援していく。</p> <p>学習のまとめをタブレットで作成した後、共有アプリで互いに閲覧するだけでなく、プレゼンテーションできる機会を作ることで、国語科の「話すこと・聞くこと」の力も高めることができると考える。高学年は、用語の暗記になりがちなので、自分なりの考えを導くことができるように資料の活用や体験学習を取り入れることも継続する。</p>
	<p>理科</p>	<p>「令和6年度学習力サポートテスト」において、5年生以外は区平均を上回った。各単元の事象と出合う場面では、教科書の内容を基にしながら、より実際の生活になぞらった内容にした。また、タブレットを活用して、実験の様子を記録するなどの工夫を行った。実験の様子を再現したり、考察の記述に活かしたりすることができた。</p> <p>理科支援員と積極的に連携を図り、予備実験を行ったり教材を準備したりすることができ、授業をスムーズに行うことができた。児童が学習に取り組みやすい環境を整えることができた。</p> <p>教育センターによるプラネタリウムなど、児童の興味関心を高めながら学習を進めることができた。</p>	<p>全学年共に知識として活用する場面では、習熟度合いが高いとは言えない。体験したことや操作したこと、比較検討したこと等を記述してまとめたり、違う視点で既習事項を活用したりすることについて課題が残った。タブレット端末のドリルアプリや紙のプリントでの問答形式に慣れさせていくことで、習熟を図れるものと考えている。</p> <p>また、プログラミング学習の単元では授業時間を2～3時間程度多く確保することで、児童の探求的な学習に深みをもたせることができると考える。</p> <p>例) 6年「わたしたちの生活と電気」でのMeshの扱い</p>
	<p>英語</p>	<p>「令和6年度学習力サポートテスト」において、6年生の知識・技能、思考判断の観点が下回っている。ICT機器を活用した音声リピートやALTとのコミュニケーションによって、児童は英語に親しむことができた。歌やゲームなどで、聞き慣れない言語学習にも関心をもって取り組むことができて</p>	<p>単語を正しく覚えることが難しく、曖昧な表現になってしまう児童が見られる。また、英語に対して苦手意識をもっている児童もいるので、何度もリピートしたり、振り返りを書かせたりして、外国語の楽しさが体感できるように工夫していく。</p> <p>また、日常生活の中で外国語活動を</p>

		<p>いる。</p> <p>単元後半にはクイズやゲームなどのアクティビティーの時間の確保を目指し、多くの児童が外国語を話したり使ったりすることができた。</p>	<p>通して学んだことを活かす機会が増えたとよい。例えば、観光客へインタビューする等、銀座等立地を活かした学習活動を入れるなども考えられる。</p>
	<p>体育・保健体育</p>	<p>年間指導計画を作成し、6学年が系統性をもった指導を実施できた。実技研修会を実施し、指導内容の共有や広がりや指導に活かすことができた。</p> <p>保健領域の学習では、プレゼンテーションソフトを活用したりワークシートを工夫したりしたことで、健康について深く理解させることができた。</p>	<p>今後も実技研修会を随時実施し、指導内容の共有を図っていく。また、OJT研修で効果的な指導力向上を図るためにも、参観後の協議や研修を行う。</p> <p>体育指導補助員と連携を図り、用具の設定や準備などを計画的に行い、児童の運動量の増加を目指す。</p>
<p>②授業改善</p>	<p>学校評価、教員の授業に関する項目で、回答の90%がAとBの評価となった。OJT委員会が授業参観週間を設定したので、他学年の教員と授業について話す機会が増えた。</p> <p>校内でICT研修を行ったことで、授業でタブレットを用いて導入をしたり、情報共有の場面で活用したりすることができた。</p>	<p>OJT研修として授業参観を行っているが、指導力の向上に向け、随時指導内容に応じた研修会の実施を検討していく。</p> <p>様々な場面でタブレットが活用できるよう、児童のタブレットの活用能力を育成する。</p>	
<p>③家庭との連携</p>	<p>学級活動や泰明マラソンのボランティアなどで、保護者に学校の様子を見てもらえる機会はある。今後も、連携を保っていきたい。</p> <p>個人面談を活用し、成績資料を基に個々の課題を保護者と共有することができた。</p>	<p>学校評価の結果、保護者の回答「学習習慣が定着し、自らすすんで学習に取り組んでいる」の項目は25%が不十分であることから、学習習慣の定着を図るために「家庭学習週間」や「自主学習週間」等の取り組みが必要であると考える。</p>	
<p>④体力向上</p>	<p>朝の体育的活動の時間「泰明タイム」を体力テストにつながる運動に結びつけて実施できた。学校全体の結果は平均以上となった項目が多かった。</p> <p>今年度は、年間を通してマラソンの練習時間を確保し、全校体制で実施できた。気温が高い場合には、室内にて全校ストレッチの時間を設けたことで、年間で継続的に運動に関わる機会を設けることができた。</p>	<p>体力テストの結果から、高学年女子の「上体起こし」に課題が見られる。朝の時間に運動を行う「泰明タイム」で、基本的な運動習慣をつけるとともに、起き上がりの動きを図る活動を意図的に取り入れていきたい。更に、日常的に児童に体力の高まりを実感できる機会を設けていきたい。</p> <p>マイスクールスポーツの持久走の実施方法を継続し、児童が意欲的に運動できるようにする。</p>	